

議会



西脇市議会議長
林 晴 信

「議会報告会って面倒くさい割に成果がないじゃないですか」
先日そんな声を聞かせてもらいました。

そういえば、議会報告会（議会としての市民との意見交換会を含む）を開催してもなかなか政策提言にまで結びつかないという声は視察や研修でもよく聞きます。以前は開催していたが、参加者の固定化や出る意見もクレームが要望ばかりで止めてしまったという声も同じくよく聞きます。以前にもこの紙面に書いたように議会報告会が万能なわけでもないし、開催しているだけで議会改革が進んだり、住民の信頼度が増すなんてことはまずありません。それどころか、形だけの開催や情性で開催しては逆に住民の信頼を損ねてしまう危険性すらあります。

議会報告会は何のために行うのか。いま一度その意味を考える必要があるのではないかと思っています。恐らく議会報告会を初めて開催してから随分と時間の経つ議会も多く、当初の熱を保っている議員も少なくなってきたのではないのでしょうか。西脇市議会でも議会改革の経緯を知らない議員も随分と増えてきました。

■議会報告会は上手くないもの？

議会報告会が始まった当初、その目的は「議決した内容について市民への説明責任を果たす」というのが大きかったように思います。そのため1時間以上に渡り延々と続く委員会などの報告に参加者の不満は高まり、最後は怒号飛び交い炎上して終わるという経験をした議員は少なくないでしょう。今はワークシヨップスタイルを取り入れ、そんなことも少なくなりましたが、現在だとファシリテーターの技量不足もあり、雑談に終始してしまっ、帰る時に「今日は何の話し合をしたんだっけ」となることもあるのではと思います。開催するだけで何かやった気になってしまふことが、ワークシヨップの落とし穴でもあります。

そんなことから、前述の政策提言に繋がらないだとか、議会報告会そのものを止めてしまったとか、「私個人の市政報告会に500人くらい来るので、議会報告会の必要がない」と視察に来て私に自慢して帰る議員さんだとかいるのかもしれない。

西脇市議会でも、議会報告会（名称は議会と語ろう会）を開催してすぐに政策提言に昇華できるものや所管事務調査に位置付けられるものは実は少ないです。では、議会報告会の効用とはどこにあるのでしょうか。

■議会報告会とは課題共有の場

議会報告会の効用に、意見・情報の「共有」があります。会場で出た意見は市民や複数の議員で最初から共有している状態にあります。西脇市議会の常任委員会での議案審議などでも「そういえば昨年11月の〇〇地区での議会報告でこんな意見も出ていた」という発言を聞くことがよくあります。意識せずに議員たち

も言っていると思うのですが、同じ議会報告会その意見の内容を他の議員も聞いていたの、よく知っているということが大事なのです。共有ができれば、次のステップの「共感」が生まれやすくなります。市で発生している事実からの課題共有、そして「何とかしなければ」という共感が広がれば、さらにその先には課題解決のための政策づくり、つまり「共創」が始まるのです。共有からの共感、そして共創へと向かえることが議会報告会の効用です。

何も議会報告会が終了してからすぐに政策提言を、と焦ることはありません。喫緊の課題であれば急ぐ必要もありますが、少なからず後になってから問題意識が再燃するものが結構あると思っています。試しに議会報告会の報告書を作成しているなら、数年前のものを読み返してみるといいと思います。今と同じ課題があることに気づくはずですよ。

共有からの共感、そして共創へ

西脇市議会の例を
挙げると平成26年の

議会報告会で出た消防団の車両購入費の地元負担軽減について、議会で提案したのがつい最近の令和4年9月定例会で、令和5年度予算反映されています。さすがにこれは時間がかかり過ぎの極端な例だとは思いますが、その時に共感が生まれなくとも何度が問題提起されるうちに共感が生まれることがあるという好例でもあります。

そして、実はこの共有からの共感そして共創へと繋ぐことが、議論のヒロバたる議会本来の姿ではないでしょうか。市民意見が起点、そして課題の共有から管内調査や市外視察で共感を育み知見を磨き、討議での共創による政策づくり。多くの議会が目指しているのは、こういうカタチではないかと思っています。そんなことを頭において議会報告会に臨むと、いつもと違って見えるものがきっとあるはずですよ。